

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493000325	事業の開始年月日	平成29年3月1日
		指定年月日	平成29年3月1日
法人名	株式会社 ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラストつきみ野		
所在地	( 242-0001 ) 神奈川県大和市下鶴間12番地2		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 18 名 ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	令和4年12月21日	評価結果 市町村受理日	令和5年4月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「グループホーム ソラストつきみ野」は、閑静な住宅街の中にあり地域の方々に支えられ運営させて頂いております。会社全体の理念である一人一人の生活に合わせた介護をさせて頂いております。特に食事やイベントに力を入れており管理栄養士の作ったメニューに基づき、各月に「お寿司」をご提供させて頂いたり、館内のイベントとしてご入居者様と一緒に料理や誕生日ケーキを作ったりしております。ご入居者様にも大変喜ばれているイベントです。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年2月19日	評価機関 評価決定日	令和5年4月10日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は東急田園都市線「つきみ野」駅下車徒歩15分の国道16号線（大和バイパス）沿いから一步入った平坦な住宅街にあります。建物は明るい壁の鉄筋2階建てです。玄関前には多目的に活用できる広い駐車スペースがあります。

<優れている点>

法人理念をもとに毎年事業所の実情に合わせた独自目標「職場環境を整えストレスフリーな職場を目指します。職員のスキルアップを通じて入居者に寄り添うケアを目指します。」を立案して職員で共有し、定期的に振り返りの機会をもっています。リフト入浴、十分介護できるトイレ、広いリビングなどの設備により、ゆとりのある居住空間では見守りの視野が広がり安全に繋がっています。また、緊急時には法人としてサポートする支援部隊があり、クラスター発生時には物身両面の支援を受けることが出来ています。

<工夫点>

事務作業の改善を目的に電子タブレットを導入し、定着が進み記録等の時間の削減と寄り添う時間の増加を図っています。また、食に対するモチベーションを大事にしています。「忘れてしまう前は食べた時の事を思い出し、忘れてしまった時は食べる事を楽しんで欲しい」との思いで「食生活」における楽しみと活性化、潤いの機会を作っています。ソラスクール（法人の研修システム）などリモートを活用した学習の機会をつくっています。大和市の福祉施策「人生100年推進」の活用（助成制度、後見制度、ボランティアの活用）などを積極的に活用しています。看取り介護を関係者で行い、その後の対応も尊厳をもって入居者、職員で行っています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム ソラストつきみ野
ユニット名	ユニット1

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	年度ごとに事業所目標を作成し4月の会議等で共有し、半年ごとに各職員と個人面談を行い、実践出来ているかの確認も行っております。	「環境を整えストレスフリーな職場、スキルアップを通じて寄り添うケアを目指す」と2022年度の目標を立てています。3ヶ月ごとに個人面談を行い、6ヶ月には振り返り、期末には個人ごとの達成状況の確認をし、次年度目標を立てて理念の更なる実現を目指しています。	年度目標に具体的表現を伴った目標値を設定していますが更に定量的な評価に繋がるようにすることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、回覧板や運営推進会議でも、お知らせ等で情報を頂いております。現在は新型コロナウイルスの影響で地域行事の開催やボランティアの受け入れの中止が余儀なくされ、地域の方々との交流の機会はありませんが、職員の出勤に挨拶を交わしています。	自治会に加入しています。コロナ禍前は地域情報をおもに地域の民生委員から得て行事に参加していました。大和市のボランティア登録者の活用をし、今まで多くの地域の人の来訪の機会がありました。今後は感染症が終息し、再開を待っています。グループホーム連絡会に加入して相互情報交換をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所としては出来ておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在は、書面での対応となっておりますが2か月に1度運営推進会議を開催しメンバーの大和市役所介護保険課や地域包括支援センターや自治会長や民生委員やご家族様に報告し参加者からアドバイスを頂き、サービスの向上に活かしています。	自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員や家族を中心に運営推進会議を開催していますが、コロナ禍の今は書面会議です。報告書は委員、家族に送付しています。直接話し合う会議の開催を検討しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	研修や講習会があった時は、職員にも内容を周知し参加を促しています。相談や質問がある場合は、大和市役所介護保険課の方とメールや電話にて連絡をとっています。また、生活保護受給者の受け入れも行っている為、大和市生活援護課の方とも日頃から連絡を取っています。	生活保護受給者の相談や大和市の施設入居者家賃助成制度や成年後見制度の活用で大和市担当部門と連携をしています。行事や研修などの多くの情報を地域包括支援センター職員や下鶴間地区の民生員から得ています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロのマニュアルを作成し現在は書面にて勉強会を行っております。事業所内にも身体拘束の指針等を掲載しております。また、「身体拘束廃止委員会」を3か月に1回開催しております。	身体拘束等廃止委員会の開催、研修会の実施、自己チェック点検シートの活用などで注意を喚起しています。気が付いた時はその場で話し合う事にしていきます。「ちょっと待って」などの発言に繋がる問題に対して話し合いをしています。その言葉は、利用者の思いに沿ったケアに繋がるのかを検討しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に係る指針を作成し現在は書面にて勉強会を行っております。事業所内にも指針等を掲載しております。また「虐待防止委員会」を3か月に1回開催しております。	半年ごとの事例研修会や「虐待の芽チェックリスト」を3ヶ月ごとに実施して防止に努めています。居室の転倒防止のためのベット柵についても話し合いをしています。ロビーや玄関等には安全確保のための見守りモニターを設置しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は、書面にて勉強会を行い、知識を得て個々の必要性を関係者と話し合い、活用できないか提案しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、十分に説明をし疑問点等ないかも確認し、同意のもと署名と捺印をもらっております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎年、ご家族様にアンケートを実施し、結果を事業所内に掲示する等全職員がご家族様からの意見や要望を把握出来る様になっています。また、全ご家族様に毎月状態の報告書をお送りしています。	多くの家族の来訪があり、来訪時に要望を聞く機会としています。「家族だより」は居室担当が中心に衣類等の生活必需品情報、個人生活記録等を記入し、管理者経由で毎月家族に伝えていきます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送りの時間や、現在は書面にての対応になっておりますが毎月のユニット会議で意見交換を行っています。また年2回個別に面談も行い意見交換を行っております。	業務日誌、連絡ノート、個人記録などをもとに日々話し合いをしています。必要なことはユニット会議（現在は書面での会議）や全体スタッフ会議で話し合いをしています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1回、昇給に関しての面談を行い、給与水準の向上に努めております。	勤務時間管理や有休取得管理など、管理者が細かく職員の実情に合わせて相談をしています。事業所全体の間取りを広く取り、ケアがしやすい環境となっています。	個人（複数人）面談の機会を設けていますが面談が個人の実情に沿って話し合えるよう配慮する事が期待されます。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修に参加出来る様に声かけを行っております。法人内の研修に関しては、パソコンを使用した研修も行っております。	年間計画を立案して研修会を毎月実施しています。法人作成による研修内容が充実している「ソラスクール」をWEBオンラインで受講しています。職場のパソコンや自分の携帯端末で学習できるようになっています。学習後はレポート提出をして学びの進捗の把握もしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナウイルス感染症の為、グループホーム連絡会も参加が出来ていない状態です。			
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居前にアセスメントを行い、ご入居者様の趣味嗜好を確認する様にしており、ご入居前に体験入居も出来る旨を説明しております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご入居前のアセスメントで、ご家族様の要望なども聞くようにしています。また、ご入居後もご入居者様のご様子を電話や手紙で報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご入居前のアセスメントにて医療関係などの把握も行い、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物を干したり畳んだりして頂いたり掃除等のお手伝いを無理のない様にして頂いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、ご家族様にご入居者様の生活の様子を手紙にてご報告させて頂いており、事業所で解決できない場合などはご家族様に相談しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在はコロナウイルス感染症の為、面会時間や場所は制限をさせて頂いていますが、ご家族様や友人の来訪も多くあります。電話等も頂き、お電話にてお話しされている事もあります。	友人の来訪があります。多くは電話での対応が中心となっています。大和市内在住の入居者が多く、浅間神社の初詣や下鶴間地区の夏まつりの盆踊りを楽しみにしています。事業所主催の盆踊りでは入居者に浴衣を着てもらえるような季節を感じながら喜んでもらえるような取り組みも行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂の共有スペースにソファも設置しており、食事以外の時は、ソファにて過ごす方も多くお話しやレクなどをさせて頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご希望やご相談があった場合は、支援させて頂いています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居前のアセスメントで、ご本人やご家族様から思いや希望などの聞き取りを行い、ご入居後は、居室担当を中心に生活態度や変わってきた事などを連絡ノートに記載し職員に情報共有を行っています。	入居前に本人、家族にアセスメントをして、仕事、生活歴、既往歴、趣味などを聴き取ります。入居後は会話や表情から、生活の意向を汲み取り連絡ノートなどで、情報の共有をしています。以前からの自分の役割が事業所内で継続できるよう働きかけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前のアセスメントで生活歴や生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的にモニタリングを実施し心身状態の把握に努めており、支援経過記録にて流れが分かるように現状の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者や介護職員やご家族様の意見を取り入れ、定期的に担当者会議を開催し介護計画の作成や見直しを行っています。	入居前のアセスメントを基に介護計画を作成して、本人・家族が同意し、職員間で情報共有して支援します。掃除を習慣としていた人が、入居後も掃除機やモップで共有空間や自室の掃除をすることや、洗濯、食事作りなどを役割として持ちながら生活できるように支援に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は個別に記録し担当者会議や毎月のユニット会議で各ご入居者様に関して話し合いを行い、介護計画の見直しにも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	美容ボランティアなどを受け入れおり、介護プラン以外のサービスや支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	一部のご入居者様ですが、ご本人の状態安定の為、外部の病院に受診する等しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在、ご入居者様全員が事業所の提携医を主治医としています。内科は月に2回の往診の他、現在はコロナウイルスの影響の為、週に1回になっておりますが看護師の往診もあります。眼科と歯科は初めに無料検診があり、必要な方は契約しています。	入居前の主治医の継続受診も可能です。現在は利用者全員が24時間オンコール対応の協力医を選択しています。月2回の訪問診療を受けています。看護師は週に1回来訪しています。希望者は眼科と歯科の受診も可能となっています。精神科などの受診は家族対応ですが、職員が支援する事もあります。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関である「中央林間東クリニック」の看護師が現在はコロナウイルスの影響で週に1回になっておりますが往診があり、緊急時など24時間の連絡体制も整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院などされた場合は、病院関係者やご家族様と密に連絡を取り合い、情報交換や相談を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご入居の契約時に重度化や終末期における対応について指針を説明しています。ご家族様の希望などが整った場合は看取りを行っています。その場合は、医師、家族、介護者の三者で話し合いを行い、看取り契約を行います。	「看取りの指針」を入居前に説明し、重度化した時は医師、管理者から家族に状態と施設の対応を説明し、「看取り契約」を結びます。今年度も看取りを行い、職員は研修で確認し、本人・家族に寄り添い、振り返りも行っています。退去時は皆で見送りをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	大和消防本部にて全職員救命講習を受講し施設内でも定期的に勉強しており実践力を身に付けています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、防災訓練を実施しています。内1回は消防署立ち合いのもとで消化器の使い方等の指導を受けています。また、自治会主催の防災訓練にも職員が参加し地域との協力体制を築いています。	年2回防災訓練を行っています。消防署立ち合いの訓練や夜間想定訓練も行っており、入居者・夜勤者を含めた避難訓練を行っています。災害備蓄・備品は会社が一括して購入しており、備品リストもあります。	会社が一括購入して、管理していますが、事業所における災害対策の備品・備蓄のリスト化や管理を期待します。備品や備蓄の内容が職員にもわかり易く表示・管理する事を望みます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけや対応に関しては定期的に勉強会を行ったり、ユニット会議や朝の申し送りの際に話し合いをし、全職員統一出来る様にしています。	マニュアルがあり、勉強会を行っています。敬語で話す事や部屋に入る時はノックをするなど気を付けています。「ちょっと待って下さい」と言うのではなく、時間や理由を付け加えるように気を付け、入居者の移動したい時間帯の要望にも気を付けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご入居者様の思いや希望を出来る限り受け入れられる様に心がけており、ご入居者様自身が決定出来る様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご入居者様一人ひとりが居室にて過ごされたり食堂のソファにて過ごされたり、希望にそって支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容等の散髪にも来て頂いており、カラーやパーマなどの希望があるご入居者様に関しても行って頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、業者からレシピの食材が配達され温かいものは温かく、冷たいものは冷たく、美味しい状態で召し上がれるように配慮しながら提供しています。毎月、イベント食が4種類選べるようになっており、好きなものを選んで頂き食事が楽しみになるように工夫しています。	食材は業者が配達しています。「鯡の日」と4種類のお楽しみ食から選択できる「イベントの日」が毎月交互にあります。誕生日会は、職員がケーキを手作りして入居者全員がお楽しみ食を選択する事ができます。利用者はおせちやおはぎ作りにも参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	全ご入居者様の毎食の食事量や水分量も確認し記録に残しています。また摂取量が少ないご入居者様には積極的に声掛けし、摂取して頂ける様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	全ご入居者様とも、毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の観察を行っています。また、定期的に訪問歯科の往診も受けています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方には、一人ひとりの排泄パターンを把握し定期的な声掛けや誘導でトイレでの排泄を支援しています。おむつの方に関しては、パット交換で対応しています。	ICT機器を活用し排泄パターンを把握しています。誘導が必要な人は、タイムスケジュールを組んで支援しています。日中は2人介助でのトイレ誘導もしています。支援により退院時にオムツだった人が、リハビリパンツに変更になった事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	必要な方には排便観察も行い、便秘の方等には、主治医の指示を仰ぎ、下剤の内服をして頂き便秘の予防に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週に2回入浴支援をしています。リフト浴も完備しており、ご入居者様全員が入浴出来ています。入浴を拒否する方には、時間や人を変えたりして個々に応じた入浴を支援しています。	週2回入浴をしており、浴槽をまたげない人は、リフト浴で入浴しています。湯は毎回入れ替え、清潔保持に努めています。入浴が嫌いな人には、「入浴・お風呂」と言う言葉を使わない工夫した誘導や声掛け方法を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活スタイルを把握し、日中に関しても食後などにも休んで頂ける様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬に関しては、主治医や薬剤師と常に連絡を取り合い、ご入居者様の体調に合わせて支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの出来る事を大切にしてお手伝いやレクリエーション等も楽しんで頂ける様に支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウイルス感染症の為、積極的な外出支援は出来ませんが、個別での散歩の対応等出来る限り外の空気に触れられる様に支援しています。また、ご家族様の協力を得て車で外出される方もコロナウイルス前はありました。	事業所の駐車場で日光浴をしたり、事業所の周囲を車いすの人も歩ける人も職員と散歩をしています。正月には近くの神社に車いすの人も初詣に行っています。自治会の花見にも参加する予定です。家族と近くのレストランに、感染対策をして食事に出かけている人もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額ですが、ご本人様ご自分で持っている方もおります。購入希望等があった場合は、ご家族様にも相談し購入しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話に関しては、各ユニットの事務所に設置しており、利用して頂いています。手紙に関するもお預かりさせて頂き、投函する等支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有リビングは段差もなく全居室が見渡せ開放的な空間になっています。廊下の壁には、イベント時の写真やご入居者様と一緒に作成した作品も掲示させて頂いています。また食堂内にご入居者様が寛げる様にソファを設置し居心地よく過ごせる空間作りをしています。	ゆったりした玄関、廊下、リビングは、生活しやすい動線が保たれています。リビングの壁面は、職員と一緒に制作した季節の作品を飾っています。朝食後に、入居者が掃除や食器洗いなどを毎日の役割として行っています。懐かしい曲がかかると口ずさむ利用者のために、認知症予防の効果があるカラオケや音楽をかけるなどもしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各ユニットに共有スペースを確保しご入居者様一人ひとりが思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室は全室個室となっており、ベッドとエアコンと防炎カーテンを完備しています。それ以外の物は一人ひとりが使い慣れた物を持ち込んで頂き、落ち着いて生活できるような空間作りを支援しています。	居室入り口には、表札をつけ自室が分かりやすくしています。仏壇、写真、本などの思い思いの物を持参しています。自宅で植木に水やりをしていた人が、入居後も居室に花を飾り水やりをしています。読書や折り紙をするなど自室でリラックスできるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの状態により、居室のレイアウトの変更や環境整備を行い安全かつ出来る限り自立した生活が送れる様に工夫しています。		

事業所名	グループホーム ソラストつきみ野
ユニット名	ユニット2

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	年度ごとに事業所目標を作成し4月の会議等で共有し、半年ごとに各職員と個人面談を行い、実践出来ているかの確認も行っております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、回覧板や運営推進会議でも、お知らせ等で情報を頂いております。現在は新型コロナウイルスの影響で地域行事の開催やボランティアの受け入れの中止が余儀なくされ、地域の方々と交流の機会はもっていませんが、職員の出退勤に挨拶を交わしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所としては出来ておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在は、書面での対応となっておりますが2か月に1度運営推進会議を開催しメンバーの大和市役所介護保険課や地域包括支援センターや自治会長や民生委員やご家族様に報告し参加者からアドバイスを頂き、サービスの向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	研修や講習会があった時は、職員にも内容を周知し参加を促しています。相談や質問がある場合は、大和市役所介護保険課の方とメールや電話にて連絡をとっています。また、生活保護受給者の受け入れも行っている為、大和市生活援護課の方とも日頃から連絡を取っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロのマニュアルを作成し現在は書面にて勉強会を行っております。事業所内にも身体拘束の指針等を掲載しております。また、「身体拘束廃止委員会」を3か月に1回開催しております。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に係る指針を作成し現在は書面にて勉強会を行っております。事業所内にも指針等を掲載しております。また「虐待防止委員会」を3か月に1回開催しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は、書面にて勉強会を行い、知識を得て個々の必要性を関係者と話し合い、活用できないか提案しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、十分に説明をし疑問点等ないかも確認し、同意のもと署名と捺印をもらっております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎年、ご家族様にアンケートを実施し、結果を事業所内に掲示する等全職員がご家族様からの意見や要望を把握出来る様にしています。また、全ご家族様に毎月状態の報告書をお送りしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送りの時間や、現在は書面にての対応になっておりますが毎月のユニット会議で意見交換を行っています。また年2回個別に面談も行い意見交換を行っております。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1回、昇給に関しての面談を行い、給与水準の向上に努めております。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修に参加出来る様に声かけを行っております。法人内の研修に関しては、パソコンを使用した研修も行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナウイルス感染症の為、グループホーム連絡会も参加が出来ていない状態です。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居前にアセスメントを行い、ご入居者様の趣味嗜好を確認する様にしており、ご入居前に体験入居も出来る旨を説明しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご入居前のアセスメントで、ご家族様の要望なども聞くようにしています。また、ご入居後もご入居者様のご様子を電話や手紙で報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご入居前のアセスメントにて医療関係などの把握も行い、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物を干したり畳んだりして頂いたり掃除等のお手伝いを無理のない様にして頂いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、ご家族様にご入居者様の生活の様子を手紙にてご報告させて頂いており、事業所で解決できない場合などはご家族様に相談しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在はコロナウイルス感染症の為、面会時間や場所は制限をさせて頂いていますが、ご家族様や友人の来訪も多くあります。電話等も頂き、お電話にてお話しされている事もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂の共有スペースにソファも設置しており、食事以外の時は、ソファにて過ごす方も多くお話しやレクなどをさせて頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご希望やご相談があった場合は、支援させて頂いています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居前のアセスメントで、ご本人やご家族様から思いや希望などの聞き取りを行い、ご入居後は、居室担当を中心に生活態度や変わってきた事などを連絡ノートに記載し職員に情報共有を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前のアセスメントで生活歴や生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的にモニタリングを実施し心身状態の把握に努めており、支援経過記録にて流れが分かるように現状の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者や介護職員やご家族様の意見を取り入れ、定期的に担当者会議を開催し介護計画の作成や見直しを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は個別に記録し担当者会議や毎月のユニット会議で各ご入居者様に関して話し合いを行い、介護計画の見直しにも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	美容ボランティアなどを受け入れおり、介護プラン以外のサービスや支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	一部のご入居者様ですが、ご本人の状態安定の為、外部の病院に受診する等しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在、ご入居者様全員が事業所の提携医を主治医としています。内科は月に2回の往診の他、現在はコロナウイルスの影響の為、週に1回になっておりますが看護師の往診もあります。眼科と歯科は初めに無料検診があり、必要な方は契約しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関である「中央林間東クリニック」の看護師が現在はコロナウイルスの影響で週に1回になっておりますが往診があり、緊急時など24時間の連絡体制も整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院などされた場合は、病院関係者やご家族様と密に連絡を取り合い、情報交換や相談を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご入居の契約時に重度化や終末期における対応について指針を説明しています。ご家族様の希望などが整った場合は看取りを行っています。その場合は、医師、家族、介護者の三者で話し合いを行い、看取り契約を行います。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	大和消防本部にて全職員救命講習を受講し施設内でも定期的に勉強しており実践力を身に付けています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、防災訓練を実施しています。内1回は消防署立ち合いのもとで消化器の使い方等の指導を受けています。また、自治会主催の防災訓練にも職員が参加し地域との協力体制を築いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけや対応に関しては定期的に勉強会を行ったり、ユニット会議や朝の申し送りの際に話し合いをし、全職員統一出来る様にしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご入居者様の思いや希望を出来る限り受け入れられる様に心がけており、ご入居者様自身が決定出来る様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご入居者様一人ひとりが居室にて過ごされたり食堂のソファにて過ごされたり、希望にそって支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容等の散髪にも来て頂いており、カラーやパーマなどの希望があるご入居者様に関しても行って頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、業者からレシピの食材が配達され温かいものは温かく、冷たいものは冷たく、美味しい状態で召し上がれるように配慮しながら提供しています。毎月、イベント食が4種類選べるようになっており、お好きなものを選んで頂き食事が楽しみになるように工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	全ご入居者様の毎食の食事量や水分量も確認し記録に残しています。また摂取量が少ないご入居者様には積極的に声掛けし、摂取して頂ける様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	全ご入居者様とも、毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の観察を行っています。また、定期的に訪問歯科の往診も受けています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方には、一人ひとりの排泄パターンを把握し定期的な声掛けや誘導でトイレでの排泄を支援しています。おむつの方に関しては、パット交換で対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	必要な方には排便観察も行い、便秘の方等には、主治医の指示を仰ぎ、下剤の内服をして頂き便秘の予防に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週に2回入浴支援をしています。リフト浴も完備しており、ご入居者様全員が入浴出来ています。入浴を拒否する方には、時間や人を変えたりして個々に応じた入浴を支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活スタイルを把握し、日中に関しても食後などにも休んで頂ける様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬に関しては、主治医や薬剤師と常に連絡を取り合い、ご入居者様の体調に合わせて支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの出来る事を大切にしてお手伝いやレクリエーション等も楽しんで頂ける様に支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウイルス感染症の為、積極的な外出支援は出来ませんが、個別での散歩の対応等出来る限り外の空気に触れられる様に支援しています。また、ご家族様の協力を得て車で外出される方もコロナウイルス前はおりました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額ですが、ご本人様ご自分で持っている方もおります。購入希望等があった場合は、ご家族様にも相談し購入しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話に関しては、各ユニットの事務所に設置しており、利用して頂いています。手紙に関するもお預かりさせて頂き、投函する等支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有リビングは段差もなく全居室が見渡せ開放的な空間になっています。廊下の壁には、イベント時の写真やご入居者様と一緒に作成した作品も掲示させて頂いています。また食堂内にご入居者様が寛げる様にソファを設置し居心地よく過ごせる空間作りをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各ユニットに共有スペースを確保しご入居者様一人ひとりが思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室は全室個室となっており、ベッドとエアコンと防災カーテンを完備しています。それ以外の物は一人ひとりが使い慣れた物を持ち込んで頂き、落ち着いて生活できるような空間作りを支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの状態により、居室のレイアウトの変更や環境整備を行い安全かつ出来る限り自立した生活が送れる様に工夫しています。		

2022年度

事業所名：グループホーム ソラストつきみ野  
 作成日：2023年 4月 21日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所目標に具体的表現を伴った目標値を設定していますが更に定量的な評価に繋がるような仕組みになっていなかった。	事業所目標に具体的表現を伴った目標値を設定していますが更に定量的な評価に繋がるようにする事。	目標を数値や数量に着目してとらえられる様な事業所目標にする。	3ヶ月
2	9	面談の機会を設けているが、個人の実情に沿って話し合える様に配慮が足りていなかった。	面談が個人の実情に沿って話し合えるよう配慮する事。	面談に関しても、スタッフからの意見をもっと聞ける様に配慮したやり方を行っていく。	3ヶ月
3	16	災害対策の備品や備蓄のリスト化やすぐ取り出せる場所になっていなかった。	災害対策の備品や備蓄のリスト化や管理を行い、備品や備蓄の内容が職員にもわかりやすく表示や管理する事。	災害対策の備品や備蓄のリスト化や管理を行い、内容や管理場所も職員全員が周知できる様に発信していきます。	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月